

YouTubeで、
オリジナルアニメを公開中！
QRコードから見てね♪



絵には「裏」がある…？

久万美
コレクション展 I

絵画

2021年10月2日(土)
2022年1月30日(日)

休館日

月曜日(1/10は開館)・11/4、24・1/11
12/13～1/7(施設修繕工事のため)

開館時間

9時30分～17時(最終入館は16時30分)

観覧料

一般500(400)円 / 高大生400(320)円 /
小中生300(240)円 ◎ ()内は20名以上の
団体料金 ◎高齢者(65歳以上)、障害者手帳等
提示で半額。手帳提示の場合、付添い1名も半額。

町立久万美術館

〒791-1205 久万高原町菅生 2-1442-7
TEL: 0892-21-2881 / FAX: 0892-21-1954
<http://www.kumakogen.jp/site/muse/>

無料



絵画の裏 ヒ・ミ・ツ

「絵画の裏」というと、制作秘話であったり、その絵にまつわるエピソードを連想するでしょう。

この展覧会では裏側に描かれた、もう一枚の絵と、裏に書かれた文字に注目します。いつも通りに陳列された絵画の表側は、馴染み深いもの。しかし、見慣れた絵画作品が、実は両面作品である、ということあまり知られていないかもしれません。

萬鉄五郎（1885-1927）の《裸体美人（油彩習作）》。この絵の裏面にも緑青色の映える風景画を確認することができます。

画家はときに、葉書に絵を描き、差し出すことがあります。1901年、青木繁（1882-1911）が官製葉書に描いた《夜のスケッチ》。裏面の宛名には、東京美術学校での指導者・黒田清輝（1866-1924）の名前があります。

そのほか絵画には、制作年や出品した展覧会の搬入ラベルなどのメモが残されています。絵画を蒐集したコレクターの書簡が貼付されていることもあります。

絵画の裏側に隠された手がかりから、新たな魅力を発見して、絵画鑑賞を楽しんでいただければと思います。



学芸員解説

10月10日（日）・11月3日（水・祝）各日14時～

参加費：無料 ※要観覧券／場所：町立久万美術館 展示室

このほか、村山槐多や、長谷川利行らの日本近代洋画をはじめ、近現代の日本書画、陶磁器を出品します。

上段：（左から）古茂田守介《街の風景》裏面《裸婦（習作）》1944年、萬鉄五郎《風景・モノクローム》裏面《題名不詳》1912年／下段：（左から）村山槐多《紙風船をかぶれる自画像》1914年、青木繁《夜のスケッチ》1901年、中村彝《自画像ほか》1919年、岸田劉生《麗子座像》1920年（すべて当館蔵）

展覧会の会期および関連事業は、新型コロナウイルスの影響により変更になる可能性があります。新型コロナウイルス感染防止対策のため、ご来館の際はマスクの着用、消毒、検温のご協力をお願いします。



町立久万美術館

〒791-1205 久万高原町菅生 2-1442-7
TEL：0892-21-2881 / FAX：0892-21-1954



JRバス：松山から70分（ほぼ2時間毎、土・日曜・祝運休あり）予讃線松山駅から久万高原行「久万中学校前」下車徒歩約10分。

車：松山市内から国道33号線約50分、高知市内から約2時間、松山自動車道松山ICから国道33号線を高知方面へ約30分、久万中学校前交差点を左折、県道12号（西条久万線）を0.8km東進、右側。駐車場45台（無料）。